

モデル経営体名：株式会社おおよ農園（加須市）

展開：土地利用型作物の生産効率化に係る展開

経営概要 45ha（水稻45ha、いちご20a）

うち実証内容 水稻 ①地図マップの作成 ②外周の作業時間削減実証 ③施肥マップの作成

導入技術①無人自動運転田植機・クボタ・アグリロボNW8SA（無人仕様）



主な無人仕様装備

②RTK-GPSアンテナユニット ③ターミナルモニタ ④無線リモコン ⑤ほ場管理システム



実証の状況

- ①実証目的：
 - ・ほ場管理システム（KSAS）を活用した地図マップの作成。
 - ・地図マップの作成後の外周地点登録に要する作業時間削減効果。
 - ・収量コンバインとの連携による可変施肥における施肥マップの作成。

- ②実証状況：
 - ・地図マップの作成により、地図番号、田植日、作付品種、施肥量等がほ場管理システムに構築され、PC、スマートフォンでリアルタイムで確認が可能となった。
 - ・地図マップ登録後（外周走行による地点登録が不要となるため）の田植えに要する削減時間は、45ha



地図マップ



施肥マップ ■窒素25%肥料40kg基準施肥区

- （経営面積）に換算すると24.3時間であった。
- ・収量コンバインのデータを活用することにより、ほ場内の10mメッシュ施肥マップを作成した。
 （10aあたり ■42kg施肥区、 ■43kg施肥区、 □45kg施肥区、 ■39kg施肥区、 ■38kg施肥区）

- ③モデル経営体の感想： 地図マップの作成・構築がほぼ終了した。次年度からは、ほ場に到着後に即座に田植えが行えることから更に省力が可能となった。また、次年度は今年度作成した施肥マップに基づいて可変施肥を行い、収量・品質の安定化に向けた取り組みを行う。有人機との最大の違いは疲労度であり、無人機の活用は、作業の効率化、省力化、省人化を図る上で大きな成果が期待できる。